



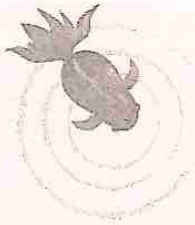
## ダメジャーと仲間たちの作品展



えんの森アトリエでえん関係者の作品展が開催されました。主宰者の中曽根夫妻は、妻は元ケアサポートえんのヘルパーで今は頼もしいボランティア、夫は妻の紹介で退職後送迎などの有償ボランティア、そして知る人ぞ知る腹話術師「ダメジャー中曽根」です。展示作品は、お二人が昔仕事にいらした和服の柄の図案、腹話術の人形、そしてスタッフの子どもたちの絵や工作。長い首がはみだしそうなキリン、見ていると吸い込まれそうな宇宙、着物の柄まで丁寧に表わした七五三の絵日記。大きな鉛筆の中にそれぞれ表情の異なる小さな鉛筆たち。その発想、色づかいに心が躍ります。その中に、えんの利用者さんの俳句も入れて頂くことに。作られたその時の表情、子どもの頃のこと、両親のこと、故郷のこと、目を輝かせて話して下さったことが思われ、時を忘れてしまいます。

最終日と重なった「だれでも食堂」では、展示された人形の腹話術が行われ、拍手喝采だったとか。次の機会には、地域の方にも色々な形で広がっていき、多勢の方が参加して下さいと嬉しいですね。

(デイホームえんボランティア／阿保きく)



## わたしが認知症になったら

6月18日第15回総会を終えました。お忙しい中参加くださった皆さま、ありがとうございました。

前年度を振り返り、これからを考えるのが総会の仕事ですが、認知症カフェやみんなのコンサートなど行事の参加者、新しいボランティアなど、周辺を囲む人々も着実に増えています。これまでかわりがなかった地域の方々が、多機能ホームまどかの畑ボランティアに、えんの森のリビングルームで午前中に「体操教室」を行っている方々が午後は認知症カフェに参加されるようになりました。そして今年度4月から「だれでも食堂」が始まりました。えんという場を利用してひととき憩える、つながり合える、「地域福祉の拠点になる」ことをえんの目標に掲げていますが、一歩近づけたように思います。

恒例の記念講演は、だれでも食堂の開設を記念して『子どもの貧困、大人ができること』と題して、「あすのば」の村尾政樹さん。P3に参加者の感想を掲載しましたので、ご一読ください。

さて、先日新座市主催講演会で認知症についてお話する機会をいただきました。これまでは認知症を理解して当事者をサポートしようという点に力を入れてきましたが、生涯に二人にひとりが係るという認知症、自分自身がこの病気の当事者になることを予想して、どんな心構えやサポート体制があったら安心して暮らせるのか、一緒に考えていくことに重点を移したいと考えました。残念ながら、アルツハイマー型やレビー小体型など多数が罹る認知症は発生のメカニズムが確定できず、根治治療の方法はありません。しかし、若年性認知症患者の中には、認知症であることを疑われるほど活躍されている方々がいらっしゃいます。自分自身が「忘れる病気」であることを自覚し、サポートしてくれる人に囲まれて、病気と共生しているのです。

最近でも「認知症にだけはなりたくない」と口にする人はいます。そう思っている病気に自分自身がなったなら否認と混乱が強くなるだけ。多くは80才を過ぎてから症状が現れ、それも皆が「徘徊」や「妄想」などを繰り返す重い症状が出るわけではなく、年齢相応の物忘れプラスαと言える程度の方も多いのです。今「私自身」にできることは、病気を受け入れられる覚悟を育て、私の代わりに記憶してくれるサポーターを見つけられるようにすること。まあ、そんなにカンタンではありませんが、今のうちから心構えを、と本気で考えています。皆さん、いかがお考えですか。

(代表理事 小島美里)

えん定例総会記念講演に参加して

## 『子どもの貧困 大人ができること』

今、こどもたちを取り巻く問題が連日報道機関を賑わせています。子ども6人の内1人が貧困と言われている中、私はその実態を現実として受け止められない感覚でいました。それは私自身が自分の生活環境に安住し、情報に正面から向き合っていなかったからだと思いました。今回、「あすのば」村尾さんの講演をお聞きし、子どもたちの様々な生活状況を窺い知ることが出来ました。

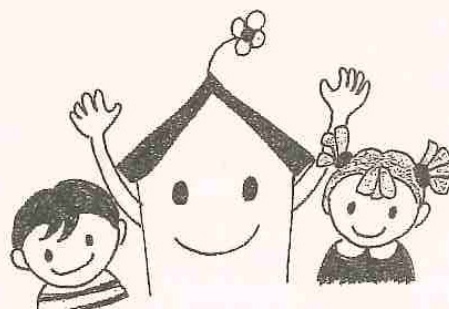
村尾さんご自身、お母様を自殺で亡くされ、お父様が定時退社等の仕事調整をし、父子家庭の生活を支えられたそうです。その仕事の仕方は会社から『会社は慈善事業ではない』旨の批判を受けたとのこと。それは正に今の社会に繋がる厳しい表現だと思いました。子どもの貧困は様々な生活困難が重なりあって起きる状態だと再認識しました。「あすのば」はその困難の具体的内容を明確にし、『入学・新生活応援給付金』として、3万円から5万円を返済不要、成績不問で子どもたちの援助に役立てているとのことでした。これは社会に対して大きなメッセージとなり、今後の飛躍になることだと思います。

日本の社会は申請制度が基になっています。自ら動き、発信しなければ様々なサービスは基本的には受けることは出来ません。児童養護施設を出た後の生活や、母子・父子家庭の直面している生活状況等どれも困難なはずですが、いわゆる「見えない貧困」となってしまうのでしょうか。当事者が困難解決に向けて援助を求めていく為には社会資源の情報を受け止め、行動するためのエネルギーが必要です。そのためにも地域連携や支え合いは様々な気付きの土台になると思います。

月一度の「だれでも食堂」に今はまだ大きな力があるとは思いませんが、楽しく食事し集える場は地味でも一つの社会への窓口になり得ると思います。

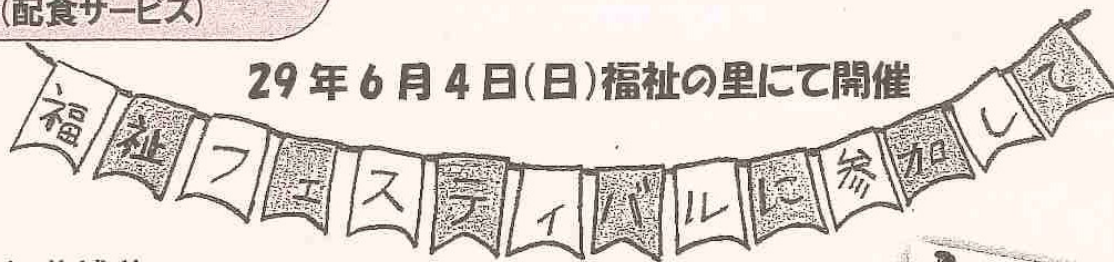
おせっかいを受け育った村尾さんは、今『おせっかえし兄さん』だそうです。

—心から拍手です—



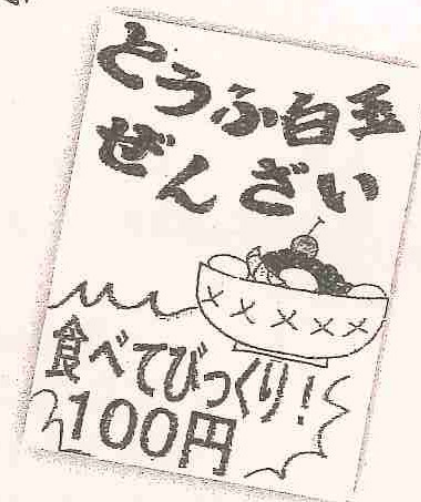
(だれでも食堂運営スタッフ／胡桃澤良子)

29年6月4日(日)福祉の里にて開催



## 《伊藤博美》

福祉フェスティバルに初めて参加し、障害のある人、高齢者、大人も子どもも共に楽しみ、ふれあいの場を拝見させていただき感動いたしました。暮らしネット・えんではきょうけち染めの体験、豆腐白玉ぜんざい販売など、みんな笑顔で一生懸命取り組んでおられました。とても楽しくよい体験をさせていただき、うれしく思いました。また来年も参加できれば…。



## 《近藤るり子》

今回初めて福祉フェスティバルにお手伝いで参加させていただきました。天候にも恵まれ、はじめは白玉作りをしていましたが、中盤から売り手にまわり、声をからしながら声かけしました。障害を持った方々が楽しそうにしていたのが、とてもうれしく思いました。お金を出すのも大変な人、いろいろな方とふれあい、とても勉強になりました。また、今話題の豊田真由子議員にも白玉買ってもらいました。テレビを見てびっくり!! 来年もぜひ、参加したいと思っています。



## 《富山優子》

私と娘(小1)と初めて参加させていただきました。当日は朝からえんの職員が白玉作りをしていて、そこに参加しました。娘もいっしょになって白玉をコロコロ丸めていました。楽しかったようで、またやりたい!と言っていました。きょうけち染めは人それぞれの色や形でみんな素敵に染められました。お天気にも恵まれ暑かったのですが、大勢の人たちが参加して活気あふれた福祉フェスティバルでした。

## 新座市福祉フェスティバル

障害者団体やボランティア団体などが実行委員会を組織し、障害のある人もない人も高齢者の方も、大人も子どもも、男性も女性も共に楽しみ、ふれあいと交流の輪を広げることを目的に開催されています。

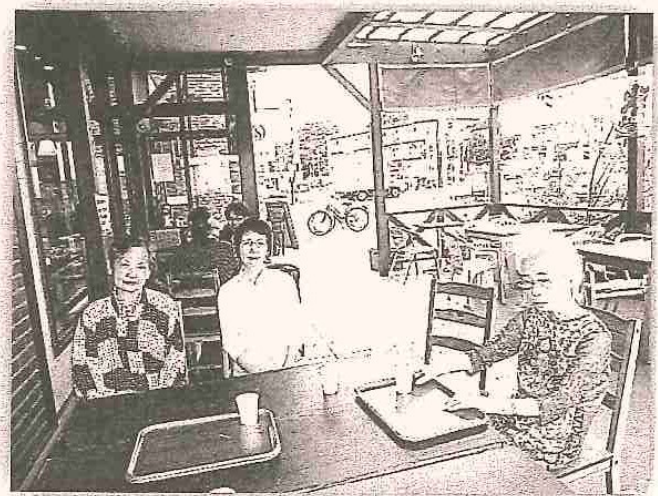
## ～デイホーム&グループホームでお出掛け～

6月中旬、デイ利用者2名とグループ利用者3名で、午後から車でお出掛けする事になった。季節柄、石神井公園池の蓮もいいな～豊島園ではアジサイ祭りやってるな～新座霊園そばの妙音沢も癒されるけど、足場が悪いか～あれこれ想いが駆けめぐる。それにデイホーム帰り準備の4時前には戻らないと…

他スタッフのアドバイスもあり、定番の平林寺周遊～サンメリーで石窯焼きのパンをおやつに食べて帰るコースに決まった。セレナ満員の運転で安全第一、握るハンドルに力みが生じる。歴史ある平林寺の門を通り「こもれば通り(初期のグループホーム利用者が名付親)」を抜け、サンメリーにイン。ここは焼きたてパンに、コーヒー&紅茶がサービスで、オープンカフェとなっている。お好みのパンを選んでオープンカフェで頂いた。晴れとも曇りとも言えない微妙な陽気の中、「なんか肌寒いね～あなた、そんなTシャツ1枚で寒くないの？」とスタッフより元気な92歳のYさんが気遣って下さる。その内、やや強い風も吹いて来て紙コップが飛ばされそうになったので、皆さんトイレに寄り撤収する事に。まだ3時半だったので、「この後もう1ヶ所、新座観音か法台寺か武野神社かダチョウ牧場でも寄って行きませんか？」と利用者アンケート。即座に「ダチョウ牧場」と決まり、いざ出陣と思いきや、今にも雷が鳴りそうな気配に…。「やっぱり今日はこれで帰りましょう」と女性スタッフの冷静な判断で、えんに戻る事に。

えんの玄関をくぐると「あ～楽しかったね～、また行きましょう」と利用者Nさん。デイ、グループ共に日々様々な過ごし方やレクが有る中で、四季や風を感じ、生活に彩りを付けてくれるお出かけも清涼剤となり、気分転換になって頂ければと思う。通いのデイとえん内の生活のグループホームでは、外出の意味合いも見る風景も全く違って見えるのかも知れません。年齢も出身も違う様々な利用者さんとのささやかな外出も、幸せで平和を実感できる時間です。さて皆さん次回はどこに行きましょうか!?

(グループホームえん/滝谷賢)



## 本を出版しました！「認知症を生き抜いた母」

グループリビングえんの森入居者 安岡美美子

母が認知症と診断されてから9年、介護らしきものをして看取るまで7年の母の生き方と介護について本にまとめました。長く老人ホームに勤務し認知症については半ば慣れっこで、あらためて驚くこともなかったのですが、家族として認知症の親を介護すると初めて気づくこともあり、また知識として知っているだけのものが、身につまされて分かり納得させられることも多々ありました。

認知症の症状の捉え方として、近年では関係性が重視されてきています。記憶力の低下によって、本人と周りの環境とを繋ぎ止めるものがなくなり、本人はその存在が足元から崩れるような体験をし、不安や焦燥感に苛まれます。これに対して本人と周囲の環境との関係をうまく構築することによって、行動・心理症状も軽減され、おだやかに過ごせるというものです。

母は重度の認知症と診断されていましたが、娘である私との関係性を深めることにより、一方では施設やスタッフによるよい環境とケアに恵まれ、最後まで自分を見失うことなく独立した人格を保ち人生を終えることができました。認知症の診断は即絶望ではなく、やり方によってはその後の人生をゆたかに送ることができます。認知症の介護にあたっている方々、将来そのような立場になる方々に是非お読みいただき、希望と勇気を持っていただきたいと思います。

書名「認知症を生き抜いた母」

—極微の発達への旅—

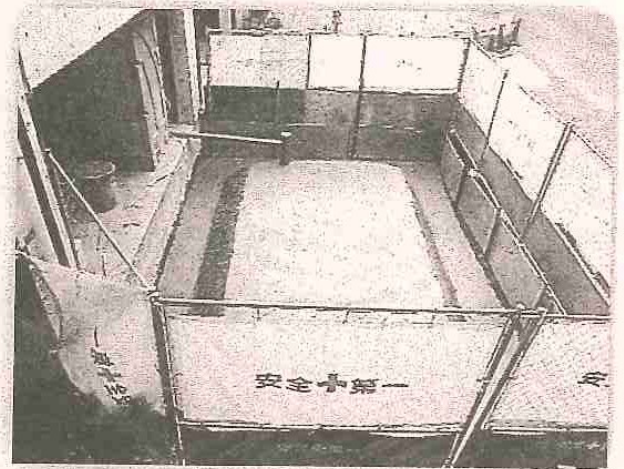
クリエイツかもがわ発行 1600円



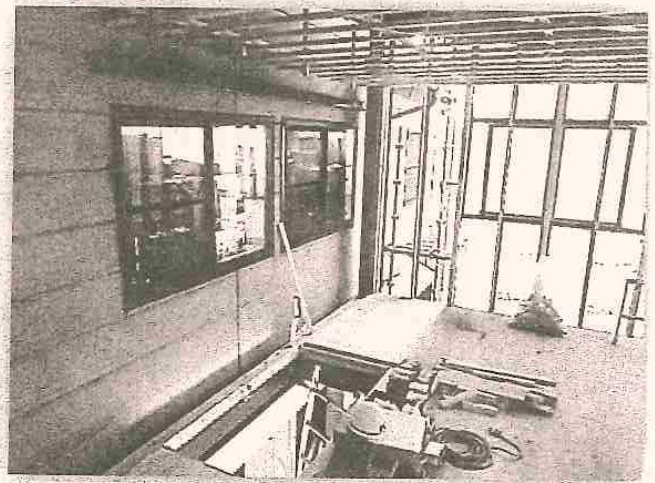
## 増築工事始まりました！

職員がいっぱいで席がない！資料を収納する棚が足りない！

法人全体で100人を超すスタッフの半分が事務所部分に所属しています。常駐人数は少なくとも、訪問介護ミーティング後の立ち寄りなどが多いときは、溢れかえってすれ違うのも一苦勞。事務局かケアプランかケアサポートのどれかが他の場所に移る案もありましたが、えんの強みである事業所間連携は同じ空間にいるからこそ。



精一杯。2017年6月工事開始で、現在増築工事の真っ最中。先に増築部分を完成させてから今使っている事務所の壁を壊して繋げるといふ工程になります。その間も通常の仕事はこの場所でやらなければなりません。工事の間はとんでもなく窮屈になってたいへんですが、広くなった事務所を思ってもう少しの辛抱です。



8月末の完成予定です。お越しただいで広くなった事務所をご覧ください。

(事務長／真中寛)



第 14 回

## みんなのコンサートのお知らせ

日時: 2017年 11月 19日(日)PM 予定

場所: 新座市中央公民館 体育室

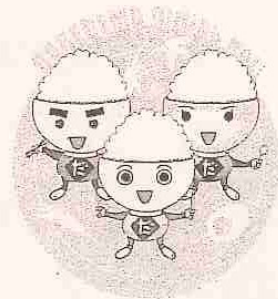
内容: 検討中です。お楽しみに!

## だれでも食堂<sup>しょくどう</sup>

毎月最終日曜日 11:00~15:00(食事は 12:00 から)

グループリビングえんの森にて行います。

材料費: こども無料・おとな 300 円



### ●—— 認定NPO暮らしネット・えんへの寄付をお願いします! ——●

税制上の特例措置により、個人は寄付金控除、法人は損金算入、相続財産の寄付は非課税となります。

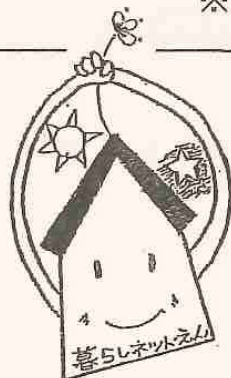
いただきました寄付は、主に介護知識の普及、研修活動や障がい者や高齢者が参加しやすい文化事業、だれでも食堂などに充てさせていただきます。

※詳しいことは、事務局までお問い合わせください。

地域で暮らし続けていくために 2017年度新規・継続会員募集中!

正会員: 1000 円 賛助会員: 3000 円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話: 048-480-4150 FAX: 048-201-1311

Eメール: [npoenn@jcom.home.ne.jp](mailto:npoenn@jcom.home.ne.jp)

ホームページ: <http://npoenn.com/>